

IPBESシンポジウム

ネイチャーポジティブ社会に向けた社会変革と行動変容

豊かな生物多様性に支えられた生態系は、我々の社会・経済・暮らし・文化の基盤であり、様々な恵みをもたらし、人間の福利に貢献していますが、人間活動の影響により、地球全体でかつてない規模で多量の種が絶滅の危機に瀕しています。IPBES（生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学 - 政策プラットフォーム）が公表した報告書では、現在世界で約 100 万種が絶滅の危機に追いやられており、生物多様性の損失を止め、回復させるためには、経済、社会、政治、技術全てにおける横断的な「社会変革」が必要と指摘されているところです。

我が国では、2023年3月に「生物多様性国家戦略 2023-2030」が閣議決定され、「2030年ネイチャーポジティブ（自然再興）」を実現すること等が目標に掲げられました。また、本国家戦略の実施のための基本戦略の一つとして、「一人一人の行動変容」が同戦略に位置付けられています。

このシンポジウムでは、本国家戦略を中心に、IPBESにおける最新の科学的議論を踏まえつつ、どのように社会変革をもたらすことができるのか、本国家戦略における「社会変革」「行動変容」の具体的な内容、社会変革に向けて求められる私たちの行動は何か等を、国内外の有識者を招いて分かりやすく情報提供することを目的とします。

開会挨拶

白石 隆夫 環境省自然環境局長（予定）

基調講演①

「なぜ私たちは人と自然のために社会変革シナリオを必要とするのか：

ネイチャー・フューチャーズ・フレームワークを含む多様なシナリオ・アプローチ」

ロウラ ベレイラ ストックホルム大学ストックホルムレジリエンスセンター研究員、
ウィットウォーターズランド大学グローバル・チェンジ研究所准教授

基調講演②

「トランジション・マネジメントによる下からの社会システムの変革」

松浦 正浩 明治大学 専門職大学院ガバナンス研究科（公共政策大学院）専任教授

パネルディスカッション

パネリスト（五十音順）

石原 広恵 東京大学 新領域創成科学研究科 准教授

橋本 禪 東京大学 大学院 農学生命科学研究科 准教授

松浦 正浩

浜島 直子 環境省自然環境局生物多様性主流化室長

2024年

2月26日（月）

13:30～15:00

オンライン（Zoomウェビナー形式）
日本語・英語（同時通訳予定）

参加料無料、事前申込制となっております。

2024年2月23日（金）までに、以下の
参加フォームからお申し込みください。



参加フォーム

[https://iges-jp.zoom.us/
webinar/register/
WN_5MyG6-fNRWyRyHAhJyIHcA](https://iges-jp.zoom.us/webinar/register/WN_5MyG6-fNRWyRyHAhJyIHcA)

登壇者プロフィール



いしはら ひろえ
石原 広恵

東京大学新領域創成科学研究科 准教授

東京生まれ。子供時代をイギリスやタンザニアで過ごす。一橋大学修士過程修了後、2003年、国連開発計画イエメン事務所でプログラム・オフィサーとして赴任。2016年ケンブリッジ大学から博士号を取得後、東京大学農学生命科学研究科に特任研究員として赴任。同研究科、助教を経て、現職、東京大学新領域創成科学研究科、サステナブル社会デザインセンター准教授。昨年まではIPBESの価値評価報告書（Values Assessment Report）の作成に関わると同時に、カリブ海のグレナダの生態系評価（National Ecosystem Assessment）に関わる。



はしもと しずか
橋本 禪

東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授

専門はランドスケープ・プランニング、生態系サービス評価とシナリオ分析。東京大学大学院農学生命科学研究科で博士号取得。マサチューセッツ工科大学、国立環境研究所、京都大学大学院農学研究科、大学院地球環境学堂（講師、准教授）を経て2015年より現職。IPBESアジア・オセアニア地域アセスメントおよび地球規模アセスメントの代表執筆者を務めたほか、2018年よりIPBES学際的専門家パネル（MEP）メンバー、2022年よりMEP共同議長を務める。



まつうら まさひろ
松浦 正浩

明治大学 専門職大学院ガバナンス研究科（公共政策大学院）専任教授

専門はサステナビリティ・トランジション、合意形成論、交渉分析。マサチューセッツ工科大学Department of Urban Studies and PlanningでMaster in City PlanningおよびPh.D.取得。東京大学公共政策大学院（特任講師、特任准教授）を経て2016年より現職。『トランジション：社会の「あたりまえ」を変える方法』、『サステナビリティ・トランジションと人づくり』ほか著作多数。



ロウラ ペレイラ

ストックホルム大学ストックホルムレジリエンスセンター 研究員・ウィットウォーターズランド大学グローバル・チェンジ研究所 准教授

ウィットウォーターズランド大学グローバル・チェンジ研究所サステナビリティ・トランスフォーメーション&フューチャーズ学の准教授であり、ストックホルム大学ストックホルムレジリエンスセンターの研究員でもある。生態学、法学、動物学、人文地理学の訓練を受けた学際的なサステナビリティ科学者。2012年にオックスフォード大学で地理学の博士号を取得後、ハーバード大学ケネディスクール、ケープタウン大学、ステレンボッシュ大学、ロンドン市立大学、ユトレヒト大学など、さまざまな機関で国際的に活躍。IPBESのシナリオ・モデルに関するタスクフォースのメンバーであり、IPBESの価値アセスメントの査読編集者、社会変革アセスメントの主執筆者（LA：Lead author）でもある。また、IPCC第6次評価報告書のアフリカ章の協力執筆者であり、様々なUNEP GEOアセスメントの統括執筆者（CLA：Coordinating Lead Author）やLAを務めてきた。

(五十音順)

(参考)

IPBES: 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学 - 政策プラットフォーム (Intergovernmental science-policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services)

IPBES は、生物多様性と生態系サービスに関する動向を科学的に評価し、科学と政策のつながりを強化する政府間のプラットフォームとして、2012年4月に設立された政府間組織です。2024年1月現在、IPBES には 145カ国が参加しており、事務局はドイツのボンに置かれています。科学的評価、能力開発、知見生成、政策立案支援の4つの機能を柱とし、気候変動分野で同様の活動を進める IPCC の例から、生物多様性版のIPCCと呼ばれることもあります。



IPBES webサイト
<https://www.ipbes.net/>



環境省webサイト
<https://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/ipbes/index.html>

連絡先

環境省 自然環境局自然環境計画課 生物多様性戦略推進室

代表 03-3581-3351 直通 03-5521-8275

室長 鈴木 渉
室長補佐 浜 一朗
室長補佐 河合 秀樹